

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572709541		
法人名	有限会社クリーンマジック		
事業所名	グループホーム大雄 (1ユニット)		
所在地	秋田県横手市大雄字上田村東38番地		
自己評価作成日	平成30年8月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の高齢化とADL低下に伴い、外出できる方が少なくなっている。外出できる方が限られているため、室内でのレクリエーションを行い、身体を動かしたり楽しく過ごしたりできるようにしている。また、壁の装飾を季節に合わせたものに貼り替えており、その装飾を入居者様と一緒に作成している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は「出来る事しか出来ない。出来る事をやっている。」と話されており、出来ないからとそこであきらめてしまわず、今の状況で出来る事を探し、工夫している。暑くて外に出る機会が少なかったり、雪が多くて外出が少ない時も、毎日レクリエーションを行い、楽しんでいる。男性の職員も多く、話を盛り上げており、とても元気で明るい雰囲気がある。「事故防止委員会」「感染予防委員会」「身体拘束防止改善委員会」「虐待予防委員会」「働く環境委員会」「レク・広報委員会」「行事委員会」「環境衛生委員会」等ホーム独自の委員会の活動が活発に行われており、横手市の情報交換会では、各委員会の活動を発表し、他の事業所でも取り入れられている。また、家族の望みを聞き取る為の「意見書」や、職員の悩みや要望を聞き取る用紙等、独自に工夫して作成し、実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で利用者様が望む暮らしを考え、食堂へ掲示している。利用者様に合わせた生活ができるよう、日々取り組んでいる。	法人としての3項目の基本理念を元に、現在の職員で話し合い、ホーム独自の理念を作成している。ホールには望・楽・笑・心の大きな4文字が掲げられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶を交わしたり、地域の行事や小学校の行事に参加させていただき交流している。	地域の運動会では、パン食い競争やスプーンレースに参加し、楽しんでいる。小学校の学習発表会やなべっこにも参加し交流を図っている。また、ホームにも小学生が歌やゲーム等を考えて来所し、一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議や広報配布を通して伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	資料を配布し、活動状況や勉強会等を報告している。意見交換や情報収集を行い、サービス向上、改善に活かしている。	運営推進会議の案内は毎回、全家族に配布し、参加を呼び掛けている。また、参加した家族から肺炎球菌についての質問等が上がると、その場で確認をし、素早く情報を提供している。	運営推進会議を毎回きちんと開催しているが、変化や気づきが少なくならないよう、マンネリ化をしない工夫に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議の際に相談したり、情報交換を行っている。	毎月行われている地域ケア会議に参加し、事例検討を行い困難事例の勉強を行ったり、施設でやっていることを報告し、情報を発信したり、協力関係に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止にむけての勉強会を行っている。玄関に施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。	現在、事例は無い。以前行っていた身体拘束も計画的に進め、身体拘束解除に成功している。また、毎年、研修を行ったり、身体拘束・防止改善委員会も発足し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行い、対応に注意するようにしている。万一発見した場合には、早急に事実確認ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用している利用者様がいるので、生活支援員や専門員の方と情報交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム見学時や面接時に話の聞き取り、説明を行っている。法の改定時には、書面で説明し承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一回状態報告文を送る際に、意見書を同封している。玄関に意見箱を設置している。面会時には、利用者様の状態報告をし、要望の聞き取りを行っている。	独自に「意見書」を作成し、毎月送付しており、家族からの意見を聞き出す工夫がされている。家族からの意見書には、感謝の言葉や、お願いしますという言葉が書かれていることが多い。食事の量が減り、痩せてきたことを心配している家族の意見には、主治医に相談した結果等報告し、食事の捕食を行ったり都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を行っている。また働く環境委員会を設け、意見や悩み、要望等を書いてもらい内容によっては話し合いをしている。	全体会議でなかなか意見が出ない為、働く環境委員会を設置し、全職員に紙を配布し、悩みや要望、思っていることを書いてもらうなど、職員の意見を引き出す工夫をしている。出された意見は、名前を伏せ、皆で話し合い運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に管理者が職員の勤務状況を報告している。働く環境委員会での意見を受け、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で勉強会を行っている。外部研修は、参加できていないのが現状である。資格の取得の補助には、協力的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や横手市グループホーム協議会の会議に参加し、情報交換をし行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人から意見や要望等を聞き、安心できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や面接時に意見や要望等を聞き取りしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に作業を行ったり、いろいろなことを教えてもらい、共に支えあう関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に相談したり協力をお願いし、利用者様が安心して過ごせるようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を自由としており、ゆっくり過ごせるようにしている。	馴染みの床屋に送迎したり、付き添ったりしている。また、娘と出かけたが要望があれば実現するよう支援したり、会いたい人がいれば連絡を取り、手紙を出したい人がいれば手紙を書いたり、利用者個々の思いに寄り添うよう努めている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が共に支えあうよう努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャーと連絡をとったり、ご家族様に地域の方の代表として運営推進会議に参加していただいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から聞き出したり、毎月の望みの聞き取りを行い、実現できるよう取り組んでいる。困難な場合は、利用者様の立場になり、検討している。	担当制を採用しており、担当職員が常に本人の思いを聞き取り、他職員と共有している。編み物をして家族にプレゼントしたいという意向があれば、実現できるよう支援している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に聞き取りを行っている。日々の生活の中で聞き、職員と情報を共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースに合わせて過ごしていただいている。生活の様子を記録に残し申し送りを行い、現状把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議や日々の生活からの様子、ご家族様の要望を聞き、介護計画を作成している。	毎月担当者がモニタリングを行っている。ケース会議前には用紙を準備し、全職員が気になる所等書き込み、担当職員、ユニットリーダー、計画作成、管理者で話し合っている。面会時や郵送にて「家族の望み」という用紙を渡し、意見を聞く工夫をしている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子や状態変化を介護記録に記入し、申し送り等を行い、情報を共有している。必要に応じて、介護計画に追加・見直しを行っている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からのなじみのある場所へ出かけたり、小学校の行事や地域の運動会へ参加させていただいている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様が希望している病院、かかりつけ医を利用している。嘱託医へは24時間連絡、相談ができる体制を整えている。	往診では検査等出来ない為、基本的には嘱託医に月1回受診しているが、具合が悪い時は、嘱託医が往診で対応する体制が出来ている。薬局の薬剤師とは電話で相談したりと、気兼ねなく連絡し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ状態報告をし、介護や手当のアドバイスをいただいている。体調不良時や気になることがある時は、直接医師へ連絡し、適切なアドバイスをいただいている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活の様子を情報提供し、面会時には状態の聞き取りを行っている。看護師や医療相談員と連絡を取り、話し合いをしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族様、ホーム職員とで相談し、今後の方針についての話し合いをしている。その際は、訪問看護等も利用できるよう、主治医、ご家族様と相談している。	今年度は終末期に向けた事例はなかったが、過去には2回程支援している。毎年勉強会を行っており、今年度急に亡くなった方へも、職員は適切に対応した。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニットに緊急時対応マニュアルを準備し、いつでも確認できるようにしている。AEDについての勉強会を行った。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月から10月の間は毎月避難訓練を行い、年2回は消防立ち会いのもと通報訓練を行っている。地域の消防団にも協力をお願いしている。	いざ災害が起こった時に行動すべきことを忘れないよう、ホーム開所時より毎月避難訓練を行っており、利用者も行動すべきことを覚えている。毎月避難訓練を行っていることで、実際に非常口のスロープが雨の時には滑る事実を事前に把握できており、マットを敷いて対処している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声かけを行い、声の大きさやトーン、話す場所等に気をつけ、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	声かけの仕方が職員によって違うと、混乱してしまうため、統一するようにしている。トイレやお風呂の時には特に配慮しており、声が大きい時は「もう少し声を小さくしてみては？」等、職員同士アドバイスしあっている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中から望みや思いを引き出したり、自己決定しやすいような場面作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた声かけや支援を行うようにしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容を利用したりしている。身だしなみが整えられるように準備し、支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、季節や行事に合った食事の提供を心がけている。準備や後片づけができる利用者様には、一緒に手伝っていただいている。	年越しやお盆、敬老会等、行事に合わせた食事を提供するように工夫している。献立は職員が考案しており、昼食時の調理員はシルバー人材を活用している。山菜の時期には山菜を提供したり季節を感じれるよう配慮している。食事後は食器拭き等、利用者も一緒に片づけをしている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録し、状況に応じて補食をすすめている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをし、利用者様に合わせて見守りや介助を行っている。週3回ポリドント洗浄を行い、年2回歯科健診の協力をいただいている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう誘導している。利用者様に合わせて、使用するパッドの種類を使い分けている。	ホーム独自のチェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握している。また、起床時から朝食後までは尿量少な目なので小さなパッド、その後は尿量が増える為大きなパッドを使用するなど、失敗が増えてもパッド交換で済むよう工夫している。オムツ代は自己負担なので、工夫してコストを抑えるよう配慮し、日中のみ布のパンツが可能になった成功事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や運動をすすめたり、牛乳、ヨーグルト等の乳製品、水分摂取をすすめている。便が何日も出ない時は薬を内服することもあるが、量を調整している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状態に合わせて、清拭やシャワー浴等の入浴介助を行っている。	受診が重なったり、受診の時間がかかったりに対応できない時もあるが、基本的には毎日、午前午後共に入浴はできる状態になっている。体調が悪い時は、清拭やシャワー浴も可能である。脱衣室にも暖房が完備されており、冬でも湯冷めすることなく、ゆっくりと入浴できる。一緒に歌を歌ったり、個々の好みの湯温にする等工夫している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣や状況に合わせて休息の声かけや誘導を行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員がいつでも確認できるように、利用者様ごとのファイルに保管している。申し送りや連絡帳で情報を共有し、内服後の様子を記録に残している。薬剤師にも相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の全般を職員の介助で行っている利用者様もいるが、できる方は食器拭きやタオルたたみ等を職員と一緒にしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様やご家族様と相談し、外出や外泊ができるようにしている。地域の行事に参加している時は、地域の方にも協力していただいている。	娘の家に行きたい、買い物に行きたい等、日常的な希望にも、ご家族に連絡したり、職員と一緒にいったり対応している。数人での散歩も日常的に行っているが、暑い日や、雨・雪の日はホール内を散歩したりと支援している。地域の行事では、地域の方に車椅子を押してもらったり、手をつないで一緒に参加してもらったりなど、協力を仰いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべて職員が管理している。外出した際は、ほしい物を聞き一緒に買い物をしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという訴えは少ないが、ご家族様から届いた手紙を見たり、職員が代読している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や温度、湿度調整を行い、過ごしやすいようにしている。ホームに季節の装飾を行ったり、行事や外出の写真を飾ったりしている。	レク広報委員会や行事委員会、環境衛生委員会等あり、季節ごとに壁を綺麗に装飾している。利用者と一緒に、春は枝垂れ桜、夏は藤の花やひまわり、秋には紅葉などの飾りを作っている。掃除は基本的に職員が行っており、夜勤者が夜にモップかけや洗面所の掃除、朝に掃除機をかけ、棚を拭いており、ホーム全体が清潔で明るい雰囲気である。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状態に合わせるために、食事は座る場所が固定となることが多い。その他は、自由に座っていただいたり、ソファーに座って過ごしたりしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しい物だけでなく、自宅で使用していた物を持ってきていただいている。家族の写真や贈り物は、利用者様の見えやすい位置に飾っている。	居室の掃除は基本的に職員が行っているが、利用者も自分で棚を拭いたりしている。居室内も床暖で冬も暖かく過ごせている。位牌を置き、朝1回水を取り替える方、日中何回も取り替える方、全く取り替えな方と自由に過ごしている。各居室に冷房は無いが、居室の戸を開け、簾をかけたりと、心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の目線に合わせた場所に貼紙をしたり、時計を置いている。食堂や居室は利用者様の状態に合わせてその時々で配置を変えている。		